

## 神とつながっていきましょう

カムレッシュ・D・パテル  
日曜のグループ瞑想後のスピーチ  
2015年3月29日 インド、チェンナイにて

こんにちは、

私たちの敬愛するマスターは、私たちが年に3回お祝いをすることを認めてくれました。ララジ師、バブジ師、そしてマスターご自身の誕生祝いをです。私たちはこの中では、3回とも全てお祝いをする用意が来ていますが、社会生活上の様々な理由により、それが出来ないのかもしれませんが。バンダラ（誕生祭）の時の集団瞑想に参加できないことで、罪悪感を感じる必要はありません。可能ならば、自宅でお祝いをしてください。もしその場に行けなくても、どうかここをくじけさせないでください。あなたのここはその場にしっかりと居るのです。配偶者や親が、あなたが祝いに行くのを嫌がるから、または経済状態や仕事の関係で行けないからという理由で、せつかくのこの状態をなくさないでください。理由が何であれ、どうか無理をしないでください。全員が全てのバンダラに参加することは不可能なのです。

もし私たちのここがあふれ出し、「愛するマスター、自分の状況がどれほど良くないか私はここで言いはしません。でも、今、ここで、どうか一緒にお祝いしてください」と言うならば、どこに居ようとも私たちはマスターをお招きすることができるのです。私たちのここが求め、乞い願う時、マスターたちは全力でそこにいてくれるでしょう。ですから、私たちは自分のここがマスターとつながり続ける心構えをしなければなりません。このバンダラだろうが、あのバンダラだろうが、そんなことは些細な到達目標です。小さな小さな志です。私たちの理想は、ずっとマスターたちとつながっていることであるべきです。朝に瞑想をして、そして瞑想状態にその日1日入っているように、またバンダラは年に3回だけけど、自分の中での祝いの状態はその後も続くべきです。つまり、私たちが、マスターが求めるような人生を生きていることに対する感謝を感じ続けるということなのです。そのような人生が自然に展開してゆくので、私たちはありがたいと感じ続けるのです。

サハジ・マーグは、1つの大きな特徴があります。それは、輝ける世界に行くため、死を待つ必要がないということです。それは物質的な世界ではなく、単なる次元なのです。そして、それは私たちの心の中でつくることができ、心の中で感じることができます。この世界とその世界の違いがないような状態でなければなりません。バブジ師の自伝で一節を思い出します。そこではララジが「あなたのために輝ける世界を捨ててきました。あなたのここが私の住まいになりました。今後輝ける世界へ私は戻ることはしません。」と彼に言いました。バブジが心の中でつくった状態を想像してみてください。そして、この心が今この場で輝ける世界になれるという状態をつくることは、私たち全員に可能だとマスターが保証し約束するのです。そうしたら、毎日がお祝いです。

だからそのようなかたちで皆が備えるよう強くお勧めします。何度も言うようにマスターの助けはそこにあります。「マスター、マスター、私を祝福してください。私にこれを与えてください」、「私にあれを与えてください」と私たちは乞い続けます。そのようなうんざりするような頼みごとはやめてください。もっと大きくてすばらしいものを頼んでください。それを得たとき、生涯他になにも必要ないほどのものを。

そしてバンダラと言えば、バブジ師の誕生祭は今回ラクナウ市で開催されます。ここ数年気づいたことですが、バンダラの参加者は様々な欲望にかられているようです。商談が数多く行われ、派閥が出来上がってしまい、そして神の祝福や聖なるエネルギーをそこでしかもらえないと思いつこんでいるかのようにマスターのコテージに居座る人もいます。このような振る舞いは輝ける世界のマスターたちへの侮辱なのです。「私は入れなかった。エネルギーの伝達はもう望めない。やっぱり特別な人々しかそれをもらえないものだろう」このミッションにおいては特別な人間は存在しません。列に並んでマスターの居間に、または寝室にまで何とか通されるかもしれませんが、でも私が何度も言ってきたように、マスターと直接触れ合うことはできますが、こころの中に受け取る状態ができていない限り、その「真なるもの」をもらうことは不可能です。そしてこころが正しい状態にあるのであれば、それは確実にもらえるのです。あなたがマスターの居場所から遠く離れていても。

ですから自分のこころの中により深く潜り、たくさんの愛でマスターたちの聖なる記憶に浸り、そして彼らの存在の前で自分が溶けていくチャンスとしてバンダラを活用してください。私の願いはそれだけです。コテージに駆け込み、人生のつまらない目標を優先することでバンダラを台無しにしないでほしいです。

みなさん、ありがとうございました。